

犬の総合教育社会化推進機構

オビディエンス競技

ステップ1（一部改正）

ステップ2（一部改正）

ステップ3（新規）

規定書

2009年2月1日（改正作成）

2017年7月5日（一部改正）

OPDES オビディエンス・SP（ステップ1・2・3）競技規定

競技規定は2009年4月1日より改正試行される

《導入趣旨》

このオビディエンス・SP競技は、オビディエンス競技・チームテストに進むための前段階であり、当法人が実施しているしつけ教室や、皆様が普段行っているしつけ・トレーニングのレベルチェックの場として、またオビディエンス競技・チームテストに対しての場慣れ、そして、人と犬とのコミュニケーションを深める場にして頂けたらと考え実施するものです。（試行実施となります）

尚、この規定については会員の皆様、参加された皆様のご意見も参考にし、より良く犬との関係をステップアップしていけるような競技内容にしたいと考えています。

競技内容・採点・その他については、オプデスオビディエンス委員会において随時見直しをしていく予定です。見直しによって規定等が変わる事もあり、参加される皆様がとまどってしまう事も想定されるのですが、何卒ご理解の上御参加頂ければと思います。

《全般規定》

○ハンドラーと出場犬はスポーツマンシップの精神で、また愛犬家としてのルールを守って競技に参加して下さい。

○犬に装着する用具は一つだけとし、スパイクカラー・ヘッドカラーなどの使用は禁止します。

チェーンカラーを装着している場合、引き締めの状態での使用は禁止となります。（洋服等も原則禁止となります）

○競技は全て〔基本姿勢に始まり、基本姿勢で終了〕とします。

（基本姿勢・犬がハンドラーの右もしくは左の脚側で座っている形）

○競技リンク内では、飛びついたりじゃれたりしすぎないようにコントロールしましょう。

○審査は課目毎に評価が下され、その評価に応じた点数が与えられます。

出場者が審査簿の閲覧を希望した場合、ジャッジはそれを拒むことはできません。

ただし審査内容に意義を申し立てる事はできません。

○審査終了後、ジャッジが評価と得点を公表します。

○明記されていない事は、ジャッジの判断とします。

《競技失格》

○競技中いかなる場面（入退場や申告も含む）でも、ハンドラーのスポーツマンシップに欠ける態度、コントロール不能犬、あるいはジャッジが犬の行動に重大な欠点（怪我など）を認めた場合、競技は中止され失格となります。

○犬が勝手にハンドラーのもとを離れ、呼び戻しでハンドラーのもとに戻ってこない、リンク内に戻ってこられないような場合も競技は中止され、失格となります。

*全競技（SP1～SP3）はジャッジ、A・ジャッジに飛びつく事は失格する恐れがあります。

上記の場合、得点は一切与えられません。

《表彰・その他》

○合計点が同点の場合、脚側課目の合計点が高いペアが上位となり、脚側科目も同点の場合「座れ・伏せ」の課目合計の高いペアが上位となり、更に「座れ・伏せ」の課目合計も同点の場合、「待て・来い」課目合計の高いペアが上位となります。

○全てのクラスにおいて、ハンドリングの際の誘導行為（ハンドシグナル・ボディアクション）は極力使わない事が理想的です。

※規定されていない事項についても競技会の現場等で、より変更が望ましいと考えられる事項があった場合は、ジャッジおよび競技会事務局の判断で決定します。

《各課目の中止》

あまりにも競技時間がかかりすぎる場合、中止になる場合があります。

ステップ1規定

競技の流れ	ステップ1 (全てリード付き)
全体	<p>ポーチ類 OK、防寒目的以外の手袋は NG (中に入れたおやつなどが、こぼれないように注意して下さい。) コマンドは少ない方が理想的ですが、特に回数の制限はありません。 集中させる為に名前を呼んでもかまいません。 犬を触っての誘導、リードをひっぱりすぎる誘導は少ない方が望ましいです。 基本的にジャッジ、または、アシスタントジャッジがハンドラーに声を掛けながら、各作業を進めていきます。 脚側行進は、犬が人の右側でも左側でも構いません。 脚側行進の速歩(早く歩く・小走り)・緩歩(ゆっくり歩く)以外はすべて常歩(普通に歩くスピード)です。 リンクでの事前練習は出来ません。 ご褒美を見せながら歩く事は OK ですが、指定されたモチベーションゾーン以外で与える事は出来ません。(飛びついてとられないように注意しましょう。また、落とさない様に注意して下さい。)</p>
申告	<p>ジャッジと握手します。(犬は座れの姿勢です) ・この際、審査簿の確認などをします ジャッジがハンドラーと犬の周りを1周します。その後、ジャッジの合図によりスタート地点に向かいます。</p>
脚側行進	スタート位置につき、基本姿勢からジャッジの合図によりスタート
座れ	<p>[座れ]のゾーンで、速やかに座らせます。 ・ご褒美を見せて座らせても良い。 ジャッジが合図をしたら、ご褒美をあげる事が出来ます。</p>
脚側行進	基本姿勢の後、[伏せ]のゾーンへ向かいます。
伏せ	<p>[伏せ]ゾーンで、速やかに伏せをさせます。 ・ご褒美を見せて伏せをさせても良い。 ジャッジが合図をしたら、ご褒美をあげる事が出来ます。</p>
脚側行進	ジャッジの合図により基本姿勢(座れ)をとり、ジャッジの合図によりスタートします。
速歩ゾーン	止まることなく常歩の2~3倍ぐらいのスピードで脚側行進をします。スピードの切り替えポイントで、緩歩に移ります。
緩歩ゾーン	止まることなく常歩の半分ぐらいのスピードで脚側行進をします。スピードの切り替えポイントで、止まることなく常歩に移ります。
スラローム行進	パイロンをスラロームで脚側行進 進み方は、1個目のパイロンを左に抜け、後は交互に通過していきます。
4つのパイロン	スラロームを抜けた後、右折をし、4つのパイロンへ向かいます。 パイロンの中で[座れ]をさせます。ジャッジが合図をしたら、 ご褒美をあげる事が出来ます。 その後、ジャッジの指示で呼び込みゾーンへ向かい、[座れ]をさせます。(パイロン間で、8の字脚側行進はありません)
待て (座れ、もしくは、 <u>伏せ</u> の姿勢)	<p>☆ロングリードへの付け替えは任意です。 ・ロングリードは、招呼の方へ端をのぼして地面に置いてあります。 ・ロングリードに付替えた後、[座れ]もしくは[伏せ]の姿勢をとらせて離れる。 ・離れる際には犬に背を向けながらも、対面しながらでもどちらでも良い。 ・リードは競技会事務局で準備したものを使用します。 ・離れる距離は、およそ5メートルとなります。</p>
呼び込み	<p>ジャッジの合図で、犬を呼んで下さい。 ・ロングリードに付け替えた場合、リードは持たないで呼びます。 ・ご褒美を見せて呼んでもかまいません。 来た犬には、[座れ]をさせる。 ・座る位置は、正面でも脚側でも OK。 ・ご褒美を見せて座らせてもかまいません。 ジャッジが合図を出したら、ご褒美をあげる事が出来ます。</p>
終了	ロングリードに付け替えた場合、ジャッジの合図でショートリードに付け替えて競技終了です。

全てリード付きで行います。

おやつを与える、褒める場面でもリードの端は離さないようにしましょう。

(おやつを与える事は任意です。与えないからと言って、評価に影響する事は有りません)

自信のあるペアは、「呼び込み」の課目でショートリードのまま作業を行っても構いません。

ステップ2規定

競技の流れ	ステップ2（全てリード付き）
全体	<p>ポーチ類 NG、防寒目的以外の手袋は NG （ご褒美は何も持たない状態で行う。ポケットなどにも入れないで下さい！） コマンドは少ない方が理想的ですが、特に回数の制限はありません。 集中させる為に名前を呼んでもかまいません。 犬を触っての誘導、リードをひっぱりすぎる誘導は少ない方が望ましい。 基本的にジャッジ、または、アシスタントジャッジがハンドラーに声を掛けながら、各作業を進めていきます。 脚側行進は、犬が人の右側でも左側でも構いません。 脚側行進の速歩（早く歩く・小走り）・緩歩（ゆっくり歩く）以外はすべて常歩（普通に歩くスピード）です。 リンク内での事前練習は出来ません。</p>
申告	<p>ジャッジと握手します。（犬は座れの姿勢です。） ・この際審査簿の確認などをします。 ジャッジがハンドラーと犬の周りを1周します。その後、ジャッジの合図により犬をコントロールしながらジャッジの周りを1周し（ジャッジを中心に犬を外側にしして周る）、止まらずにスタートラインへ向かいます。</p>
脚側行進	スタート位置につき、基本姿勢からジャッジの合図によりスタートします。
座れ	<p>[座れ]のゾーンで、速やかに座らせます。 ・ご褒美を使って（見せるなど）座らせる事は出来ません。 ジャッジが合図をしたら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ません。</p>
脚側行進	基本姿勢の後、[伏せ]のゾーンへ向かいます。
伏せ	<p>[伏せ]ゾーンで、速やかに伏せをさせます。 ・ご褒美を使って（見せるなど）伏せさせる事は出来ません。 ジャッジの合図で[座れ]の姿勢に戻します。 ジャッジが合図をしたら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ません。</p>
脚側行進	ジャッジの合図により基本姿勢（座れ）をとり、指示によりスタートします。
速歩ゾーン	<p>概ね常歩の約2～3倍のスピードで脚側行進をします。 スピードの切り替えポイントでは止まることなく、[緩歩]に移ります。</p>
緩歩ゾーン	<p>概ね常歩の半分のスピードで[緩歩]（ゆっくり歩く）を行います。 スピードの切り替えポイントで止まることなく、[常歩]に移ります。</p>
スラローム行進	<p>パイロンをスラロームで脚側行進 進み方は、1個目のパイロンを左に抜け、後は交互に通過していきます。</p>
脚側行進 （パイロン間）	<p>スラロームを抜けた後、右折をし、[群集]（4つのパイロン）の方へ向かいます。 パイロンの間を八の字を描く様に右回り左回りで脚側行進をします。パイロンの中で[座れ]をさせます。ジャッジが合図をしたら、呼び込みゾーンへ向かいます。</p>
待て （座れ、もしくは、伏せの姿勢）	<p>呼び込みゾーンで、合図により[座れ]・[伏せ]のいずれかの姿勢をとらせて、その場で犬を待たせます。 （ロングリードへの付け替えは任意ですが、付け替える場合は[待て]の姿勢をとらせる前に付け替えてください） ・ロングリードは、招呼の方へ端をのばして地面に置いてあります。 離れる際は犬に背を向けながらも、対面しながらでもどちらでも構いません。 ・リードは競技会事務局で準備したものを使用します。 ・離れる距離は、およそ10メートルとなります。</p>
呼び込み	<p>ジャッジの合図で、犬を呼んで下さい。 ・ロングリードに付け替えた場合、リードは持たないで呼びます。 来た犬には、ハンドラーの正面で[座れ]をさせる。 ・ご褒美を使って（見せるなど）[座れ]をさせる事は出来ません。 ジャッジが合図を出したら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ません。</p>
終了	ロングリードに付け替えた場合、ジャッジの合図でショートリードに付け替えて競技終了です。

全てリード付きで行います。

褒める場面でリードの端は離さないようにしましょう。

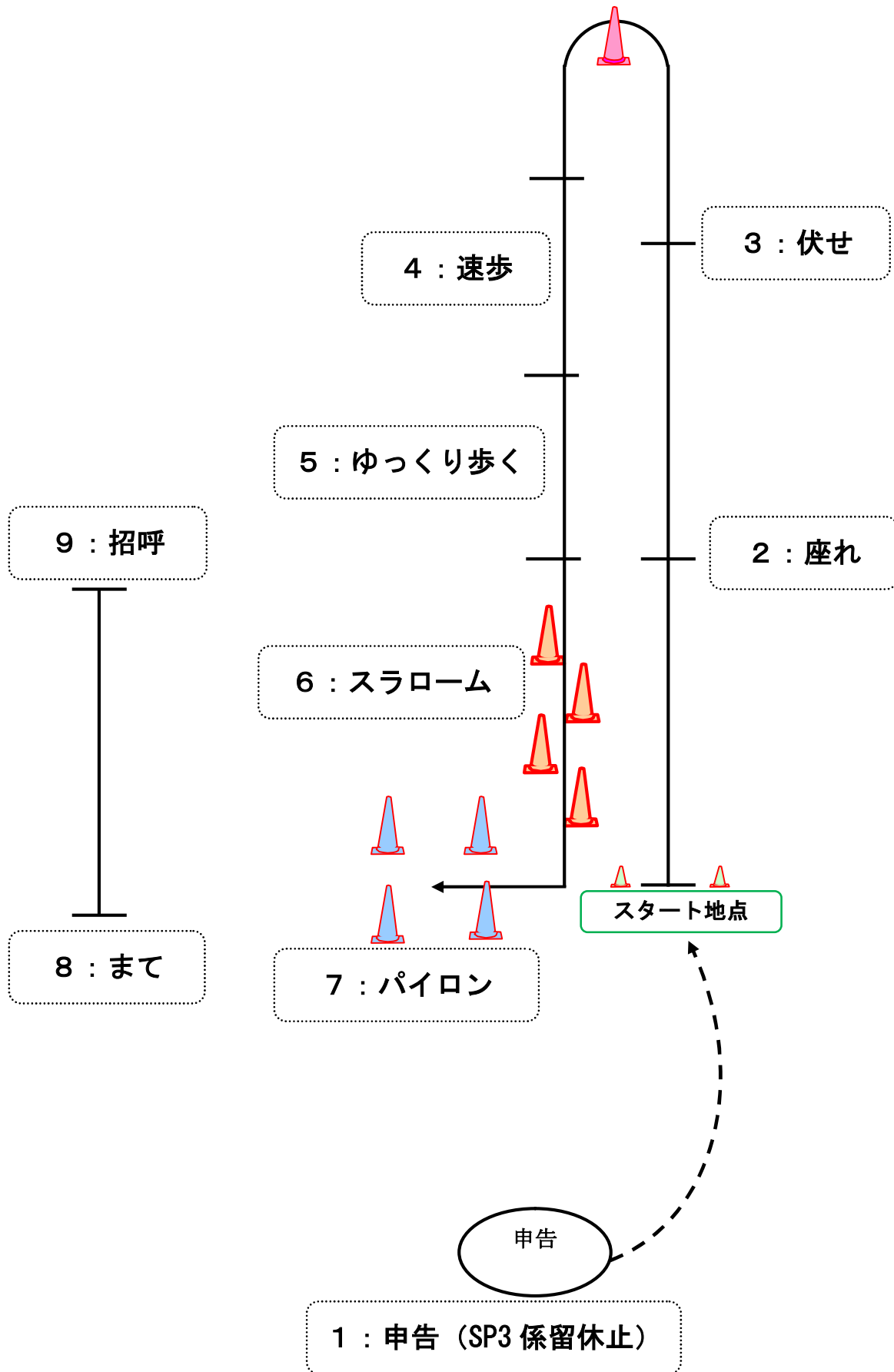
自信のあるペア？は、「呼び込み」の課目でショートリードのまま作業を行っても構いません。

ステップ3規定

競技の流れ	ステップ3（全てリード付き）
全体	<p>ポーチ類 NG、防寒目的以外の手袋は NG （ご褒美は何も持たない状態で行う。ポケットなどにも入れないで下さい！） コマンドは少ない方が理想的ですが、特に回数の制限はありません。 集中させる為に名前を呼んでもかまいません。 犬を触っての誘導、リードをひっぱりすぎる誘導は少ない方が望ましい。 基本的にジャッジ、または、アシスタントジャッジがハンドラーに声を掛けながら、各作業を進めていきます。 脚側行進は、犬が人の右側でも左側でも構いません。 脚側行進の速歩（早く歩く・小走り）・緩歩（ゆっくり歩く）以外はすべて常歩（普通に歩くスピード）です。 リンク内での事前練習は出来ません。</p>
申告・休止	<p>ジャッジと握手します。（犬は座れの姿勢です。） ・この際審査簿の確認などをします。 ジャッジがハンドラーと犬の周りを1周します。 ジャッジの合図で、指定の場所へ係留し[座れ、または、伏せ]の姿勢をとらせませす。 ハンドラーは、ジャッジと共に誘導された場所へ離れます。 約30秒後、ジャッジの合図で犬のもとへ戻ります。 ジャッジの合図で係留を解き、その後、犬をコントロールしながらジャッジの周りを1周し（ジャッジを中心に犬を外側にして周る）、スタートラインへ向かいます。</p>
脚側行進	スタート位置につき、基本姿勢からジャッジの指示によりスタートします。
座れ	<p>座れのゾーンで、座らせませす。 ・ご褒美を使って（見せるなど）座らせる事は出来ませす。 ジャッジが合図をしたら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ませす。</p>
脚側行進	基本姿勢（座れ）をとらせて、ジャッジの指示でスタートします。
伏せ	<p>[伏せ]ゾーンで、速やかに伏せをさせませす。 ・ご褒美を使って（見せるなど）伏せさせる事は出来ませす。 ジャッジの合図で[座れ]の姿勢に戻します。 ジャッジが合図をしたら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ませす。</p>
脚側行進	基本姿勢（座れ）をとらせて、ジャッジの合図でスタートします。 小さく左ターンをし、スピードの切り替えゾーンへ向かいます。
速歩ゾーン	止まることなく常歩の約2～3倍のスピード[速歩]で脚側行進を行います。 スピードの切り替えポイントでは止まることなく、[緩歩]に移ります。
緩歩ゾーン	止まることなく[緩歩]（ゆっくり）で脚側行進を行います。 スピードの切り替えポイントでは止まることなく、[常歩]に移ります。
スラローム行進	パイロンをスラロームで脚側行進 進み方は、1個目のパイロンを左に抜け、後は交互に通過していきます。
脚側行進 （パイロン間）	<p>[常歩]で右折をした後、群集の方へ向かいます。 （群集は人が2人と2つのパイロンです） パイロンを対象に八の字を描くように右回りを左回りで脚側行進をし、パイロン&群集の中で[座れ]をさせませす。 ジャッジの合図の後、[常歩]で呼び込みゾーンへ向かいます。</p>
待て （伏せの姿勢）	<p>呼び込みゾーンで、[座れ]をさせませす。 （ロングリードへの付け替えは任意ですが、付け替える場合は[座れ]の状態で行って下さい） ジャッジの合図で[伏せ]の姿勢をとらせ、その場で犬を待たさせませす。 ・離れる際には犬に背を向けて離れます。 ・リードは競技会事務局で準備したものを使用します。 ・ロングリードは、端をのばして地面に置いてあります。 ・離れる距離は、およそ10メートル先となります。</p>
呼び込み	<p>犬と対面した後、ジャッジの合図で犬を呼んで下さい。 ・ロングリードに付け替えた場合でも、リードは持たないで呼ぶ来た犬には、[ハンドラーの正面で座れ]をさせませす。 一呼吸あけた後、犬を脚側の位置（横の位置）につけ座らせませす。 ・ご褒美を使って（見せるなど）座れをさせる事は出来ませす。 ジャッジが合図を出したら、褒めてあげて下さい。 ・ご褒美やおもちゃを与える事は出来ませす。</p>
終了	ロングリードに付け替えた場合、ジャッジの合図でショートリードに付け替えて競技終了です。

全てリード付きで行います。褒める場面でリードの端は離さないようにしましょう。
 自信のあるペア？は、「呼び込み」の課目でショートリードのまま作業を行っても構いません。

オビディエンス SP 実施要領図



※ステップ3 (SP3) の (7) 青色パイロンは、4個の内2つが人になります。